

CASBEE 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都ロイヤルツインズホテルPJ	階数	地上10F
建設地	京都市南区東九条室町46番地2、56番地	構造	RC造
用途地域	市街化区域、準防火地域、31m高度地区、高度利用地区、駐車場整備地区、下水道処理区域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2018年5月15日
敷地面積	1,719.32 m ²	作成者	柳田
建築面積	927.27 m ²	確認日	2018年5月25日
延床面積	6,302.08 m ²	確認者	園田



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	98%
③上記②以外の	98%
④上記+	98%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>現在、京都は世界の観光都市となっており、近年では宿泊施設が不足している状況です。その為、計画地付近ではホテル建設が増加しています。高度成長期のニュータウンに位置し、低層住宅から商業施設まで混在する地域となっているので、本計画により、新たな地域景観を誘導するものとして外観を計画するとともに、地域の皆様との共存共生を目指します。</p>	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>居室の建具は断熱性の向上を図り、複層ガラスとした。使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>設備配管類の更新等に配慮し、主要経路は共用部から維持管理点検が行えるようになっている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建物周辺部には緑地を設け、暑熱環境に配慮。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>窓部は省エネルギー性の高い複層ガラスとし、熱損失、熱取得の低減に努めた。また、自然エネルギー変換利用設備として太陽光パネルを設置。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>限りある資源を有効に利用する、節水型機器を採用した。躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>特になし</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される